

いちご「とよのか」の促成栽培における開花時期の予測法							
<p>【要約】 いちごの促成栽培において、定植後の出葉数を調査することによって、開花時期を予測する方法を開発した。この方法を利用することによって、その年のいちごの開花時期の早晩を判断することが出来る。</p>							
園芸研究所・野菜花き部・野菜品種研究室					連絡先	092-922-4111	
部会名	園 芸	専 門	栽 培	対 象	果菜類	分 類	普 及

【背景・ねらい】

いちごにおいて、激化する産地間競争に対応するには計画的な生産を行なう必要があり、そのためには、できるだけ早い時期に頂果房の開花時期を予測する必要がある。いちごの花芽分化時期の内葉数はほぼ一定であることから、定植後の出葉状況から開花時期を予測する方法を明らかにする。

【成果の内容・特徴】

定植後、10日から出蕾期までの間に出葉状況を調査することによって、定植後から頂芽の最終葉の出葉までの期間を推定し、さらに開花までの日数を加算することによって、頂果房の開花時期を予測することが出来る。

$$Y = \frac{5.02 \times (D - 4.96)}{L - 0.55} + 20.5$$

Y：定植後開花までの日数、D：定植から出葉調査日までの日数、L：調査日の出葉数（葉柄部が露出している葉：1枚、葉柄部が露出していない葉：0枚とする）

- ① いちごの花芽分化時における内葉数はほぼ5～6枚であり（図1）、出葉速度を計算することによって最終葉の出現時期が予測できる。
- ② 出葉速度は、気温との関係は見られず（表1）、定植後に液肥施用や夏期低温処理栽培を行っても一定で、その推移は1次回帰式で表わすことが出来（図2）、それに基づいた出葉予測図を作成した（図3）
- ③ 最終葉出現から開花時期までの日数は気温や生育状況に左右されない（データ省略）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 生産者毎のいちごの開花時期予測に活用できる。
- ② 出葉状況の調査に当たっては、園場の中庸な生育を示す10～20株を選定する。

[具体的データ]

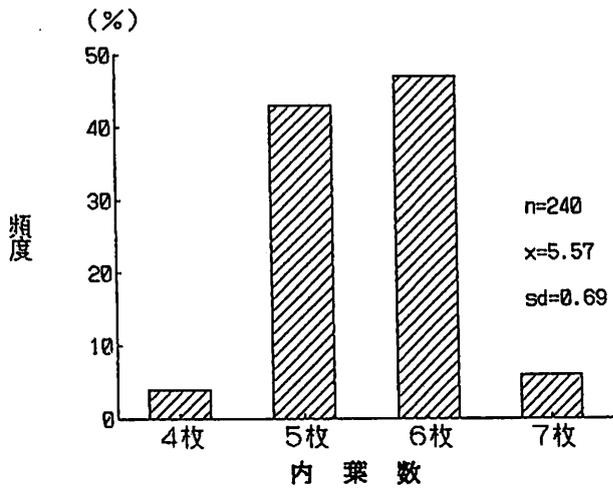


図1 定植から出蕾までの葉数別株頻度 (平成4年)

表1 温度と出葉数 (平成4年)

気温	出葉数	備考
18℃	3.9枚	1982~91までの
22℃	4.2	9月の平均温度の
26℃	4.3	平均 22.7℃
F値	温度	1.67n.s.
	その他	8.82**

注) ①人工気象器利用による調査
 ②処理期間: 25日間
 ③温度: 定温、日長時間: 12時間
 ④**: P<0.001

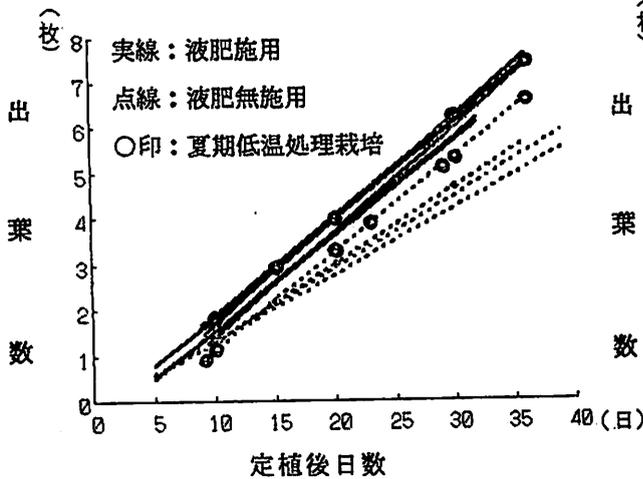


図2 定植後の出葉数の推移 (平成4年)

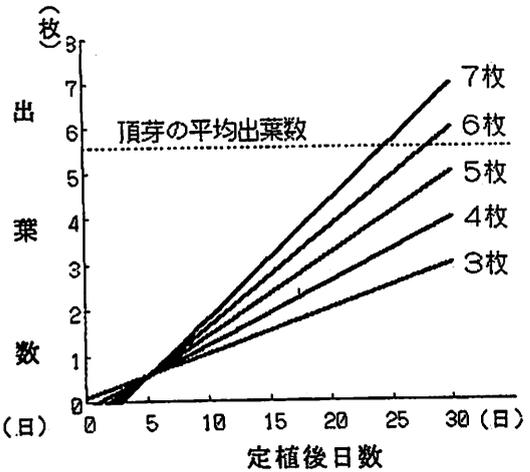


図3 推定した出葉数 (平成4年)
 (定植後30日目の出葉数が3, 4, 5, 6, 7枚の場合)

[その他]

研究課題名: 促成イチゴの開花時期予測

予算区分: 経常

研究期間: 平成4年度 (平成2~4年)

研究担当者: 伏原 肇、林 三徳、柴戸靖志

発表論文名: 平成4年度園芸研究所野菜花き部野菜品種研究室試験成績書